

5 章 経済

- 5-1 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち
- 5-2 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち
- 5-3 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち



札幌コンベンションセンター（特別会議場）

5-1 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

5-1-1 産業振興推進の方策

(1) 第2次札幌市産業振興ビジョン

変化する社会経済情勢に的確に対応し、札幌経済を持続的に発展させていくため、中長期的な産業振興の方向性を示す「第2次札幌市産業振興ビジョン」を策定している。

このビジョンでは、札幌市が持つ地域の強みや時代の潮流を捉え、新たな経済成長の原動力を作り出す「重点分野」を「観光」、「食」、「IT」、「クリエイティブ」、「健康福祉・医療」と定めるほか、全産業を高度化させるために必要な「横断的戦略」として「中小・小規模企業への支援」、「新たな企業や価値の創出」、「人材への支援」「持続可能な札幌経済の構築」の4つの戦略を設定している。

HP <https://www.city.sapporo.jp/keizai/top/keikaku/2ndvision.html>

5-1-2 「食」、「IT」、「クリエイティブ」、「健康福祉・医療」分野の振興施策

(1) 食関連産業の振興

北海道は、広大な土地と四方を海で囲まれた立地環境を背景に農業や漁業を基幹産業の一つとして発展してきており、従前から日本の食料基地としての地位を獲得している。そして、北海道の「食」には高いブランドイメージがあり、一次産品自体でも高い魅力を有している。

また、札幌市は、北海道の「食」の一大消費地であるとともに、一次産品の付加価値を高めることができる食料品製造業などが多く存在している一大集積地となっている。さらに、「食」は農業や製造業はもちろん、加工機械に組み込むIT、食品や加工品等を配送する卸売業・運輸業、レストランなど販売・サービスを提供する飲食業・小売業等、幅広い産業に関連することから、「食」分野を重点分野の一つと定め、さまざまな取り組みを進めている。

ア 販路拡大に向けた支援

展示商談会や物産展への出展支援、海外バイヤーとの商談会の実施等により、食関連企業の国内外への販路拡大の取り組みを支援している。

イ 商品開発支援

「持続可能な社会の実現」を目的に道産農畜水産物を活用した商品開発等に取り組む企業に対する支援を行っている。

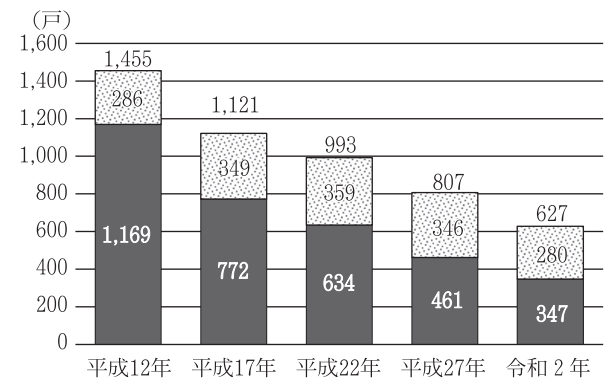
ウ 食品衛生管理認証等の取得支援

食品衛生管理水準の向上や販路拡大促進のために、各種認証の取得に取り組む企業に対する支援を行っている。

(2) 農業の振興施策

札幌市の農業は、明治初頭の屯田兵による開墾に始まり、明治9年には札幌農学校（現北海道大学）が設置されるなど、北方農業の先進地として重要な役割を担ってきた。その後都市化が進む中、現在でもタマネギやコマツナ、ホウレンソウなどの生産を中心として、市民に対する新鮮かつ良質な農畜産物の供給を担っている。

しかし、農業者の高齢化と後継者不足の進行、農産物価格の低迷などにより農家戸数の減少と農地の遊休化などの問題を抱えており、新たな都市型農業の確立に向けた取り組みを進めている。



農家戸数の推移

■ 販売農家 □ 自給的農家

<資料> 農林水産省「農林業センサス」

ア 魅力的な農産物の生産維持と支援

札幌伝統野菜の生産維持に努めているほか、関係団体・機関と連携し、札幌産農産物の安定生産に向けた技術支援や消費拡大活動に取り組んでいる。

イ 地産地消の推進

(ア) さっぽろとれたてっこの取組

「さっぽろとれたてっこ制度」は、市内の農業者が生産する農産物を対象とした産

地表示制度で、地域農産物のブランド化を目指すものであり、JAさっぽろ等と連携し、「さっぽろとれたてっこマーク」を直売所で表示するなど消費者へのPRと併せて、市内小中学校等の学校給食食材としての取扱いを促進するなど地産地消の拡大につなげている。



▲さっぽろとれたてっこマークと直売所

HP <https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/toretate/images/20210527.html>

(イ) 石狩管内における地産地消の推進

札幌市農業体験交流施設（さとらんど）の運営を通じて、農業者と消費者の交流の場を提供するとともに、農業振興イベント等の実施により、石狩管内の農畜産物への理解を深める取り組みを行っている。

【関連施設】

札幌市農業体験交流施設（さとらんど）

「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとして、市民が憩い、楽しみながら農業体験などができる田園空間を提供し、都市農業を総合的に支援する農業体験交流施設である。平成7年7月にオープンした第Ⅰ期エリア（約40ha）では、牧歌的な景観の中での家畜とのふれあい、バター・アイスクリームなどの手づくり体験ができるほか、市民農園、SLバスや馬車などの乗り物、炊事広場、パークゴルフ場などがあり、多くの市民に利用されている。

平成16年にオープンした第Ⅱ期エリア（約30ha）では、「体験農園」を利用して季節に応じたさまざまな野菜の栽培、収穫体験を行っており、「さとらんど交流館」では、石狩管内における安全・安心な農畜産物の生産供給体制づくりと広域連携による地産地消のさらなる推進

を図るため、周知イベントさっぽろ連携中枢都市圏内農産物のPR販売が行われている。

また、平成17年には、水田と新たな体験農園（約4.3ha）を、平成26年には、子ども学習農園（約0.3ha）をオープンし、より多くの市民に農業や食文化に対する理解を深めてもらうとともに、余暇活動の充実や教育・福祉活動などの広がりが期待できる事業を展開している。

HP <https://www.satoland.com/>



▲札幌市農業体験交流施設（さとらんど）での農業体験の様子

【関連施設】

農業支援センター

札幌の基幹作物である野菜などの園芸作物を中心に、生産現場への支援を行うことを目的に平成7年4月に開設した。当センターでは農業施設の導入支援などの各種振興事業の実施による都市型農業の推進に取り組むとともに、札幌伝統野菜等の栽培、土壌分析・診断、市内の生産者を対象とした巡回指導のほか、家畜衛生対策および農業被害の低減に向けた有害鳥獣対策を行っている。

新規農業者には、JA・北海道・地元農業者からなる「就農サポートチーム」の一員として、現地確認・助言等を実施し継続的に支援している。

また、市民農業講座「さっぽろ農学校」の実習の場として、農業知識・技術が習得できる研修機能も有しているほか、公共事業で発生した泥炭土壌・枝・葉・草等を原料とした堆肥を配布するなど、環境に配慮した土づくりにも寄与している。



▲さっぽろ農学校（農業支援センター）での様子

(3) IT産業の振興

札幌市は、1980年代という早い時期からIT産業の集積に向けた産業団地「札幌テクノパーク」を造成するなど、全国に先駆けてIT産業を振興してきた結果、ベンチャー企業やIT企業群を擁する全国有数のIT産業の集積地となっている。

少子高齢化による労働力不足が見込まれる中で、市内企業における生産性の向上や競争力の強化が不可欠であり、デジタル化を通じて他産業の高度化を図ることができるIT産業の重要性が高まっていることを受け、「IT」分野を重点分野の一つと定め、さまざまな取り組みを進めている。

ア 先端技術を活用した開発の支援

産学官連携による普及啓発や共同プロジェクトの創出等を通じ、市場の成長が期待される先端技術分野の需要を取り込み、技術開発の促進によるIT企業の競争力向上を図る。

イ IT市場の拡大

他産業との連携を通じたイノベーションの促進やIT企業の道外・海外への販路拡大を促すことにより、IT市場の拡大を図る。

ウ 市内企業におけるデジタル化の促進

デジタル化の普及啓発やデジタル化を推進する人材の育成、市内企業へのアドバイザー派遣、デジタル化に取り組む企業のフェーズに応じた経費への補助等を通じ、市内企業におけるデジタル化を促し、市内IT関連企業が活躍できる場を拡大させる。

エ IT人材の確保と育成

若年層や女性等への普及啓発や成長支援によるIT人材の確保・育成に加え、IT人材の

コミュニティの形成や道内学生等とIT企業のマッチング等を通じた理系人材の市内定着を促進するとともに、国内外からのIT人材の確保を進める。

【関連施設】

札幌市エレクトロニクスセンター

昭和61年、札幌テクノパークの整備とともに、同地区の中核施設として設立され、市内IT産業の振興に資するさまざまな支援を行っている。近年は、IT企業に加え、道内の食・バイオ関連の企業集積をより一層促進する研究開発拠点として整備を行った。

HP <http://www.sec.or.jp/elecen/>

(4) クリエイティブ産業の振興

札幌市では、かつてハドソンが立地していた系譜から、ゲーム開発やCGアニメ制作企業が集積しており、市場の拡大に合わせて、近年、札幌への進出企業も増えており新たな強みとなっている状況。国内のコンテンツ市場はおおむね右肩上がり成長しており、インターネットや手軽にコンテンツを視聴できる端末の普及などに伴い、今後も堅調な市場の拡大が見込まれる。

また、クリエイティブ産業の一つであるデザインは、企業のブランド構築のための戦略立案・事業構築といった経営の中心に組みこむべきものであるという理解へと広がっており、デザイン経営の効果は、商品の売上向上だけではなく、従業員の定着率の向上など、あらゆる業種が享受し得るものであることから、「クリエイティブ」分野を重点分野の一つと定め、さまざまな取り組みを進めている。

ア コンテンツ分野における開発支援と人材育成

コンテンツ産業の活性化を図るため、オリジナルコンテンツ開発等のための費用の補助や、若年層からのコンテンツ制作体験・学生が職種に対する理解を深める機会の提供など、コンテンツ市場を支える人材育成支援を行っている。

イ デザイン経営の導入支援

市内の幅広い業種の企業を対象に、デザイン経営の基礎や好事例を伝える講座の提供や、デザイン経営を導入するための経費の補助、市内企業が必要とするデザイン人材とのマッチング等を通じて、デザイン経営の普及啓発及び実践の後押しをしている。

(5) 健康福祉・医療関連産業の振興

「健康福祉・医療」の分野は、超高齢社会の進展により、今後、需要の拡大が見込まれるとともに、札幌市は、冷涼な気象条件や豊富な農水産資源に加え、研究に適した環境を有し、教育機関や企業等が集積する地域特性を活かしていけることから、重点分野の一つと定めている。

この分野では、大学・研究機関等の集積を背景としたバイオビジネスの振興や、ヘルスケアビジネスの創出などに向けた取り組みを進めている。

ア 研究開発への支援

「健康・医療」関連分野の研究を行う若手研究者及び事業化・実用化に向けた研究を行う企業と研究機関の共同グループへの支援を行っている。また、先端的な医療分野における研究を活かした研究開発に対する支援を行っている。

イ 販路拡大・協業の促進支援

国内及び海外商談会などへの市内バイオ関連企業の出展支援を実施。創薬・バイオ系企業に対する研究開発、創薬系展示商談会への出展支援だけでなく、IT・ものづくり企業に対する医療、介護系展示商談会への出展支援も行っている。

ウ ヘルスケアビジネスの構築支援

「健康・福祉」分野の産業を活性化するため、同分野における技術的知見や企業育成のノウハウ等を有する支援者のサポートにより、安定的なビジネスモデルの構築に向けた支援を実施している。

エ 医療関連産業成長促進に向けた取組

医療関連産業の活性化と集積を図るため、事業拡大等の専門的支援や起業家育成プログラムのほか、関係機関と連携したセミナー等を実施している。

5-1-3 「観光」分野の振興施策

(1) 第2次札幌市観光まちづくりプラン

札幌市の観光に関する取組の方向性を示す「第2次札幌市観光まちづくりプラン」を令和6年3月に策定した。

プランに掲げた令和14年度の総観光消費額1兆円という目標に向け、各種の観光振興施策を実施するとともに、持続的に札幌の観光を発展させていくための体制の整備や財源の確保に向けた具体的な検討を進めている。

(2) 観光コンテンツの充実

ア 観光行事

(ア) さっぽろライラックまつり

例年5月の中旬から下旬にかけ、大通公園と川下公園を会場として苗木のプレゼントや野だて、ワインガーデンなどの各種行事を実施している。

HP <https://www.sapporo.travel/lilacfes/>

(イ) YOSAKOIソーラン祭り

例年6月上旬に大通公園を中心とした市内の会場で開催しており、札幌の街は踊り子と観客の熱気に包まれる。

HP <https://www.yosakoi-soran.jp/>

(ウ) さっぽろ夏まつり

例年7月中旬から8月中旬の約1ヶ月間、大通公園を中心にビアガーデンや盆踊りなど各種行事を実施している。

HP <https://www.sapporo.travel/summerfes/>

(エ) さっぽろオータムフェスト

例年9月に大通公園を会場に開催しており、「北海道・札幌の食」をメインテーマとして、道内各地から旬の食材やご当地グルメを一堂に取り揃える。

HP <https://www.sapporo.travel/autumnfest/>

(オ) さっぽろ菊まつり

例年11月初旬の3日間、札幌駅前通地下歩行空間、さっぽろ地下街オーロラタウンで開催しており、菊花の展示等が行われる。

HP <https://www.sapporo.travel/chrysanthemum-festival/>

(カ) さっぽろホワイトイルミネーション

例年11月下旬から翌年の3月中旬（大通公園は12月下旬、駅前通は2月中旬）まで、大通公園、駅前通、南一条通、札幌市北3条広場（アカプラ）、札幌駅南口駅前広場で開催しており、70万個以上の電球で飾られたシンボルオブジェや立木が、冬の札幌の街を幻想的に彩る。

HP <https://www.sapporo.travel/white-illumination/>

(キ) ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo

例年11月下旬から12月下旬にかけて大通公園2丁目で開催しており、本場ドイツのクリスマス雑貨やグリューワインなどの販売が行われ、冬の札幌の街はロマンチックなクリスマスムードに包まれる。

HP <https://www.sapporo.travel/white-illumination/event/munich/>

(ク) さっぽろ雪まつり

例年2月上旬に開催しており、大通、つどーむ、すすきのの3会場において、趣向を凝らした雪氷像のもと、各種イベントなどが盛大に繰り広げられる。

HP <https://www.snowfes.com/>

(ケ) スマイルリンクさっぽろ

2月上旬から中旬に開催しており、札幌都心部にスケートリンクを設置し、一般開放のほかスケートショーや子ども向けの体験教室などを行っている。

イ スノーリゾート推進事業

都市型スノーリゾートとしての世界的ブランド確立に向けた、市内スキー場の魅力アップや冬季観光コンテンツ造成に対する補助及び市内スキー場が連携した事業への支援を行っている。

HP <https://snowsapporo.com/>

ウ 定山溪観光振興

全国有数の温泉地である定山溪の観光振興を図るため、「定山溪観光魅力アップ構想」に基づき、地域が行う誘客強化や受入体制の充実を図る取り組みへの支援などを行っている。

エ 付加価値の高い観光コンテンツ事業

札幌ならではの観光資源を活用した魅力的なコンテンツ造成への支援を行っている。また、札幌の夜景・夜間観光を推進するためのプロモーション等を実施している。

(3) 観光客及びコンベンションの受入強化と誘致促進

ア 国内・国際観光の促進

現地プロモーションやWEBを活用したプロモーションのほか、パンフレット等などのPR媒体の充実を図り、魅力発信や誘客の強化に取り組んでいる。

また、海外においては、アジア・欧米地域等からの観光客誘致を図るため、WEB・SNSを活用したプロモーション等を行っている。

イ MICE推進事業

国内外のMICE（政府系国際会議や学術会議といったコンベンション、企業のインセンティブツアー（報奨旅行）等）の誘致・開催支援のためのツール製作や積極的なセールス

など、きめ細かい誘致活動を行っている。

ウ おもてなし推進事業

おもてなしのレベルアップや受入体制の強化を図るため、札幌おもてなし委員会（事務局：札幌商工会議所）と連携し、事業者向けの外国語コミュニケーション講座を実施しているほか、市民・事業者のおもてなし意識醸成の取り組みなどを行っている。

エ 広域連携による観光振興

道内中核都市（函館市、旭川市、釧路市、帯広市及び北見市）、さっぽろ連携中枢都市圏等の広域連携により、札幌・北海道観光の新たなスタイルや価値を創出・発信し、道内外観光客の周遊及び滞在の促進を図っている。

オ 観光案内所

JR札幌駅に、北海道と連携して観光と食の魅力発信を行う『北海道さっぽろ「食と観光」情報館』を設置している。札幌市内及び北海道全域の情報提供を行う館内の観光案内所では、日本語のほか英語、中国語、韓国語が対応可能な案内スタッフが国内外からの来客の要望に応じている。

カ 観光ボランティア

大通公園観光案内所、北海道さっぽろ観光案内所及びさっぽろ雪まつり会場内の臨時観光案内所では、来客を温かく迎え入れるために、観光ボランティアがおもてなしの心を大切にした観光案内を行っている。

キ 観光情報の提供

観光情報を提供するため、日本語のほか4言語（5字体）で観光マップを作成している。また、ホームページでも情報を発信している。「ようこそさっぽろ」

HP <https://www.sapporo.travel/>

ク 観光案内板

市内周遊あるいは滞在活動が円滑になるよう、日本語のほか3言語（4字体）で172基の観光案内板と、6基のデジタルサイネージによる観光案内板を設置している。

(4) 観光とコンベンションの現況

ア 各種調査の実施

観光施策の基礎資料として活用することを目的として、「観光客入込調査」、「宿泊施設利用状況調査」、「観光施設利用状況調査」、「新千歳空港における観光客動態調査」、「観光イベント等経済効果調査」等を実施している。

イ 観光客の状況

令和5年度の札幌市への観光客入込数は、1,454万人となった。

ウ 宿泊施設の状況

令和5年度における札幌市の宿泊施設は373施設であり、客室数は34,922室、定員数は74,300人となった。

【関連施設】

札幌コンベンションセンター

平成15年6月に開業し、2,500人を収容できる大ホールなどを有した、国際会議から市民イベントまで幅広く利用できる総合型コンベンション施設である。

HP <http://www.sora-scc.jp/>

観光客・宿泊施設の状況

各年度中

年 度	観 光 客 数	宿 泊 施 設 数 ¹⁾		
	全 市	軒 数	客 室 数	定 員 数
平 成 30 年 度	千人 15,846	軒 249	室 29,029	人 58,002
令 和 元 年 度	15,264	317	32,004	66,583
2 年 度	5,705	351	33,173	70,313
3 年 度	7,893	367	34,073	73,745
4 年 度	13,108	362	34,339	73,729
5 年 度	14,540	373	34,922	74,300

注：1) 年度末現在。「宿泊施設利用状況調査」による。

国際会議開催件数

(暦年)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
ICCA基準	20件	25件	非公表	非公表	15件	17件
JNTO基準	109件	102件	2件	0件	23件	-

注：1) I C C A（国際会議協会）基準による国際会議開催件数とは、①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）が主催、②参加者総数が50名以上、③定期的に開催され（1回だけ開催されたものは除外される）、④3か国以上での会議持ち回りがある会議。
2) J N T O（日本政府観光局）基準による国際会議開催件数とは、①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため民間企業以外は全て）が主催、②参加者総数が50名以上、③日本を含む3か国以上が参加、④開催期間が1日以上のものである。
3) 令和2年以降の国際会議開催件数は、新型コロナウイルスの影響を受けたもの。なお、各件数は遡及して修正されることがあり他の資料と異なることがある。
4) 令和5年の国際会議開催件数は令和6年10月時点で未公表。

主な観光施設入場者数

(単位：人)

施設名	2018年度	2019年度	2020年度※7	2021年度※7	2022年度	2023年度	前年度比 (%)
円山動物園	1,009,685	1,021,281	506,602	369,194	737,444	865,610	17.4
モエレ沼公園	705,555	878,761	682,315	737,040	980,900	828,400	▲ 15.5
藻岩山（ロープウェイ、観光自動車道路）	866,986	807,872	384,078	356,632	678,654	727,810	7.2
サッポロさとらんど	576,730	592,930	264,720	175,620	405,780	712,440	75.6
白い恋人パーク※1	461,620	513,032	69,525	159,604	467,014	629,168	34.7
サッポロビール博物館	490,783	418,630	41,732	57,221	291,200	512,156	75.9
札幌芸術の森	351,955	607,759	421,826	271,719	409,867	503,672	22.9
羊ヶ丘展望台	427,907	479,136	222,607	200,289	451,951	478,263	5.8
滝野すずらん丘陵公園	559,706	426,995	259,444	238,025	436,056	472,686	8.4
テレビ塔展望台	393,840	382,717	90,560	154,874	330,890	442,648	33.8
大倉山ジャンプ競技場	401,574	370,680	200,621	133,246	272,391	425,622	56.3
時計台	215,530	244,752	82,017	89,648	239,530	290,225	21.2
J Rタワー展望室 T 3 8	245,522	222,826	70,950	97,542	198,233	233,568	17.8
北海道大学総合博物館	220,492	239,668	60,773	72,513	187,353	206,169	10.0
サンピアザ水族館	158,492	137,362	82,522	108,999	170,338	158,671	▲ 6.8
観覧車 N O R I A	142,800	142,740	38,030	51,245	112,149	137,310	22.4
北海道立近代美術館	351,579	227,776	79,035	89,916	419,527	131,544	▲ 68.6
北海道開拓の村	140,959	133,183	54,429	40,414	120,247	130,905	8.9
札幌オリンピックミュージアム※2	127,085	114,701	101,604	60,933	89,461	114,706	28.2
札幌市水道記念館	80,309	97,731	11,643	8,284	50,819	96,746	90.4
札幌市下水道科学館	63,494	49,424	15,177	15,267	49,860	62,315	25.0
豊平峡	70,331	89,411	47,194	41,160	30,659	61,453	100.4
北海道大学植物園	44,536	55,003	6,996	12,394	35,595	57,517	61.6
豊平川さけ科学館	46,808	50,645	32,906	28,287	52,856	50,003	▲ 5.4
旧永山武四郎邸	48,657	43,185	28,325	19,277	46,156	47,551	3.0
北海道立文学館	69,200	71,625	35,487	37,322	38,725	44,985	16.2
札幌市アイヌ文化交流センター	55,083	58,241	26,930	13,373	28,458	44,091	54.9
豊平館	21,476	21,062	19,548	16,394	28,081	36,743	30.8
オートリゾート滝野	53,265	43,262	13,202	16,634	38,410	31,180	▲ 18.8
定山溪自然の村	20,817	23,588	10,392	12,056	13,953	19,575	40.3
渡辺淳一文学館	17,129	14,518	4,804	8,626	15,103	14,781	▲ 2.1
大和ハウスプレミストドーム（札幌ドーム） （ドームツアー、展望台等利用者）	31,341	26,976	20,338	17,598	40,475	14,768	▲ 63.5
本郷新記念札幌彫刻美術館	16,959	15,485	17,954	11,846	14,527	11,494	▲ 20.9
宮の森ジャンプ競技場	16,476	13,056	9,729	8,460	11,423	11,260	▲ 1.4
雪印メグミルク酪農と乳の歴史館※3	15,003	17,629	0	0	486	7,855	1516.3
八窓庵	8,212	7,526	4,799	1,946	5,934	7,215	21.6
琴似屯田兵村兵屋跡	5,580	5,626	4,091	2,540	5,071	5,523	8.9
新琴似屯田兵中隊本部	2,138	2,598	1,416	731	2,810	2,891	2.9
札幌村郷土記念館	4,044	4,074	1,350	846	1,952	1,956	0.2
旧黒岩家住宅	3,013	2,802	1,572	506	1,001	1,120	11.9
札幌市公文書館	2,768	1,783	547	361	719	785	9.2
清華亭※4	7,402	7,786	2,804	1,953	5,616	535	▲ 90.5
札幌市青少年科学館※5	330,747	294,471	116,429	166,254	161,232	0	-
北海道庁旧本庁舎※6	695,905	412,666	13,090	0	0	0	-

※1（白い恋人パーク）2018年11月から2019年7月まで休館

※2（札幌オリンピックミュージアム）2022年11月から2023年3月まで休館

※3（雪印メグミルク酪農と乳の歴史館）2020年2月から2023年1月まで休館

※4（清華亭）2023年5月から2024年4月まで休館

※5（札幌市青少年科学館）2022年8月から2024年3月まで休館

※6（北海道庁旧本庁舎）2019年10月から休館（2020年9月から2020年11月まで一部期間限定公開）

※7 2020、2021年度は新型コロナウイルスの影響により、多くの施設が臨時休館を実施

(単位：人)

施設名	2018年度	2019年度	2020年度※7	2021年度※7	2022年度	2023年度	前年度比 (%)
札幌コンサートホールKitara	343,289	301,666	28,861	135,470	256,767	295,558	15.1
札幌市民交流プラザ※1	1,129,107	1,693,326	630,647	752,003	1,196,687	1,523,758	27.3
大和ハウスプレミストドーム（札幌ドーム）	2,682,981	2,818,162	488,174	758,612	1,708,625	1,055,115	▲ 38.2

※1 札幌市民交流プラザは札幌市図書・情報館の来館者を含めた人数。

5-2 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち

5-2-1 経営基盤の強化と付加価値や生産性の向上

一般的に、中小・小規模企業は、大企業と比較して経営基盤が弱いことから、少子高齢化の進行等に伴う人口減少やグローバル化の進展等による競争の激化などの構造変化に加え、社会経済情勢の変化が与える影響を受けやすく、これらに耐えるよう経営基盤を強化していくことが必要である。また、札幌市は他の政令指定都市と比較して市内企業の労働生産性が低い水準にあることから、中小・小規模企業が付加価値や生産性の向上に、より一層取り組んでいくことも必要。

(1) 経営相談の充実と資金面での中小・小規模企業の下支え

経営資源が限られた中小・小規模企業が直面する資金繰りや人材確保等の課題を乗り越え、持続的な企業活動を実現するため、経営相談体制の充実や円滑な資金調達の促進により、企業の経営基盤の強化を進める。

【関連施設】

札幌市中小企業支援センター

専門家が、中小企業の資金調達や経営改善等の経営相談に応じるほか、創業時の知識習得や事業計画作成の支援を行っている。また、企業に対する専門家派遣等を行い、中小企業の経営を総合的に支援している。

HP <https://chusho.center.sec.or.jp/>

【関連施設】

札幌市産業振興センター

市内企業を総合的に支援する中核施設として平成14年10月に開設された。

館内のセミナールームは、中小企業経営セミナーの場となっているほか、企業等への貸出も行っている。また、インキュベーション施設であるSapporo Business VILLAGEでは、起業家や新規事業を始める事業者等を対象に低廉な賃料で事務室スペースを提供し、さまざまな支援を行っている。

さらには、職業訓練を支援する施設も有しており、職業能力の開発や技能向上のための事業を実施している。

HP <http://www.sapporosansin.jp/>

(2) 社会経済情勢から生じる経営課題への対応力の向上

働き方改革やデジタル化、脱炭素等の新たな経営課題に対応していくため、専門家派遣や相談窓口などによる相談体制を整える。また、有事の際でも中小企業が事業を継続できるよう、セミナーや相談窓口を通じて、BCPの策定や事業の再構築に取り組む企業を支援し、市内企業のレジリエンスの強化を進める。

(3) 市内企業の付加価値や生産性の向上の推進

市内企業が持続的に成長していくため、製品やサービス等の付加価値の向上や、デジタル化等による生産性の向上に向けた取組を支援する。

ア 製品開発等ハンズオン支援事業

中小ものづくり企業の製品開発力、競争力強化を図るため、専門家派遣による助言や提案を通じて、ハンズオン型の支援を実施する。

イ ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業

札幌市のさまざまな産業をけん引する「重点分野」及び、札幌市産業全体の底上げが期待される「ものづくり分野」や「環境関連分野」において、さっぽろ連携中枢都市圏内中小企業者等が行う新製品・新技術開発の取り組みを支援している。

ウ 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業

小規模企業の経営基盤の強化と自社の強みとなる製品・技術の付加価値の向上を目的として、「ものづくり」分野において、さっぽろ連携中枢都市圏内小規模企業が行う新製品・新技術開発や販路開拓・拡大、試作・試験等の取り組みを支援している。

エ 製造拠点省力化機器導入促進事業

製造拠点における持続可能な生産体制の構築及び生産性向上・競争力強化の促進を図るため、省力化に資する取組を支援している。

オ 中小企業DX推進事業

市内中小企業におけるDXを推進するため、自社の経営課題解決のためにデジタル化を進める企業に対する支援や、DXアドバイザーの企業派遣、DXセミナーの開催などを行う。

(4) 市内経済をけん引する企業の創出

市内における雇用の拡大と地域経済の活性化のため、更なる成長を目指す市内企業を集中的にサポートし、市内経済をけん引する企業の創出を目指す。

(5) 円滑な事業承継の推進

地方金融機関をはじめとした関係機関との連携を図りながら、企業訪問等のプッシュ型支援による事業承継（譲渡）希望者と事業の引継ぎ（譲受）希望者のマッチング支援や、事業承継のきっかけづくりとなるセミナーの開催等により、事業承継を推進する。

5-2-2 商業活動の活性化と流通機能の強化

札幌市は、道内最大の人口を有する一大消費地であるとともに、北海道内の流通の中核的な拠点である大谷地流通業務団地や札幌市中央卸売市場を抱えていることを背景に、市内の小売業・卸売業は、事業所数や従業者数、市内総生産額が産業別で最も多く、札幌経済を支える重要な産業となっている。

市民生活を支え、北海道・札幌市の経済基盤を強固なものとするため、商業活動の活性化と流通機能の強化により一層取り組む。

(1) 商業活動の活性化

商店街は、地域コミュニティにおいて重要な役割を担うことが期待されており、それぞれの地域特性に応じた商店街の活性化事業等に支援している。

ア 商店街地域力向上支援事業

地域コミュニティの担い手である商店街が取り組むにぎわいづくりやSDGsの推進につながる取組に対して支援を行っている。

イ 商店街商業機能向上支援事業

商店街の継続的な集客力向上につながる取組や、商店街加盟店等が連携して取り組む新商品・新サービスの開発に対して支援を行っている。

ウ 商店街基盤強化事業

商店街振興組合における若手をはじめとした新規組合員の加入促進や専門家派遣による商店街の自主的な取組創出の支援を行っている。

HP <https://www.city.sapporo.jp/keizai/shotengai/ichiran.html>

(2) 流通機能の強化と卸機能の活性化

北海道の流通拠点としての重要な役割を持続的に発展させていくために、社会経済情勢の変化に応じながら、流通機能の強化と卸売機能の活性化を図る

ア 大谷地流通業務団地

札幌貨物ターミナル駅や札幌トラックターミナルなどの物流施設が集積し、北海道における広域物流拠点としての役割を担っている大谷地流通業務団地の高度化に向けて、立地企業の施設更新や物流効率化を進めやすい環境を整備するための検討を行っている。

イ 卸売キャラバン隊商談会

札幌周辺の卸売企業が道内各都市の現地食品メーカーと商談を行う、「卸売キャラバン隊商談会」を実施し、取扱品目拡大による卸売企業の競争力強化や北海道の優れた商品の販路拡大支援を行っている。

ウ 札幌市中央卸売市場

(ア) 中央卸売市場の役割

食生活に欠かすことのできない生鮮食料品は、鮮度が低下しやすく貯蔵が難しいこと、産地が全国各地に分散し、その生産量は天候に左右されやすいため価格が変動することなど、他の商品とは異なる特質を持っている。また、買い手の主力が多数の小売商であり、消費者は、より新鮮な食料品を求めるため、毎日の仕入を必要としている。

これら多種多様な品物を一カ所に集め、生産者、消費者双方が満足する公正妥当な価格形成のため、集中的かつ能率的な取引を行う卸売機能を合理的に果たするのが卸売市場の役割である。

札幌市では、昭和34年12月に全国17番目の中央卸売市場として国からの開設認可を受け業務を開始して以来、適正な価格で新鮮な生鮮食料品を市民に提供している。

さらに、北海道で唯一の中央卸売市場として、道内の地方卸売市場との連携を図り、各地に生鮮食料品を供給する流通ネットワークの要としての役割も担っている。

(イ) 食の安全・安心と環境に対する取組

中央卸売市場では、安全で安心な生鮮食料品を供給するために、卸売業者や仲卸業者等と札幌市の間で「さっぽろ食の安全・安心推進協定」を締結し、市民への信頼向上に努めるとともにオゾン水による施設洗

浄設備や低温売場の整備等、さまざまな衛生管理を行っている。また、廃棄物の再利用・再資源化を図るため、平成25年4月から、市場内で発生する野菜くずなどの生ごみ等を再利用するリサイクル施設を稼働させている。

第2部

市政の概況

5-2-3 海外からの積極的な需要獲得策の推進

札幌市の域際収支は赤字となっていることから、域外に所得が流出している現状であることに加え、人口減少に伴い、市内・道内・国内における市場規模が縮小していくことが懸念される状況において、今後の地域経済の発展のためには、人口増加や経済成長を続ける海外から更なる需要を獲得していくことが重要となる。このことから、海外からの積極的な需要獲得策の推進に取り組む。

(1) 市内企業の海外展開と海外からの投資の促進

ア 海外展開の促進

市内企業における海外ビジネスの機運醸成、海外展開におけるコンサルティングやマッチング支援等により、市内企業の海外展開を促進する。また、市内企業に対し、海外展開に重要となる国際ビジネス人材の採用・定着を支援するとともに、活躍の場の拡大に取り組む。

イ 外資・外国企業や高度外国人材の獲得

受け入れ態勢や優遇措置の整備のほか、イノベーション・エコシステムの構築や外資企業と市内企業の協業等を通じ、外資・外国企業の誘致に取り組む。

また、市内、首都圏留学生向けの合同企業説明会や企業向けセミナーの実施等により、高度外国人材を呼び込み、市内企業への定着を促進している。

ウ 互恵的な国際協力や都市間交流の展開

経済分野を含む将来の多様な交流につなげていくため、国際協力機構（JICA）北海道国際センター（札幌）等との連携による国際協力事業の活用促進や、アジア地域を中心とした海外都市との都市間交流の活性化による関係強化を進めている。

5-2-4 新たな企業や価値の創出

(1) 企業立地の促進

雇用創出や地域経済の活性化などを目的として、本社機能・事務センター、IT・コンテンツ半導体をはじめとする先端産業の企業誘致に取り組んでいる。

札幌市中心部の再開発と連動し、官民一体となって積極的な企業誘致を行っていくため、「大札新（だいさっしん）」を企業誘致のスローガンに掲げ、札幌のビジネス環境の魅力PRや立地企業に対する支援を行っている。

HP <https://www4.city.sapporo.jp/invest/>

(2) 創業の促進、新たな価値を生み出すシステムの構築

ア スタートアップ創出支援事業

IT・テクノロジーなどの先端技術を活用し社会に新しい価値を生み出すスタートアップ企業の創出や成長支援のため、札幌市・北海道・北海道経済産業局を中心にスタートアップ支援に取り組むSTARTUP HOKKAIDO実行委員会を設立。情報発信や相談窓口の設置、コミュニティ形成等の支援を通じて、札幌市及び北海道のスタートアップ・エコシステムの構築を目指している。

HP <https://startuphokkaido.com/>

イ 起業志望者向け講座

起業に関心がある方や起業に向けた第一歩を踏み出す前の方を対象に、講座やセミナーなど起業に関する気軽な学びの場を提供している。

ウ 大学連携型施設等運営事業

北海道大学連携型起業家育成施設（北大ビジネス・スプリング）の入居者に賃料補助を行うとともに、インキュベーションマネージャーを配置し、ハンズオン型支援を行っている。

エ 働く女性のためのキャリア支援事業（女性の創業支援）

男女共同参画センター内にある女性向けコワーキングスペース「リラコワ」において、女性向け起業講座や相談を実施する他、起業を目指す女性のネットワーク作りなどの支援を行っている。

オ イノベーション・プロジェクト

(ア) 札幌市ICT活用プラットフォーム

官民が保有するオープンデータやビッグ

経済

データを収集、管理するための「札幌市ICT活用プラットフォーム（システム及び体制）」を構築し、ウェブサイト「DATA-SMART CITY SAPPORO」及び「さっぽろ圏データ取引市場」において多様なデータの活用促進を図ることにより、新たな価値の創出を目指している。

HP <https://ui.apimarket-sapporo.jp/>

- (イ) 札幌市イノベーション推進コンソーシアム
札幌においてIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）などの先端技術を活用したビジネス創出を促進するため、平成28年8月に産学官によるコンソーシアムを設立。先端技術に関する普及啓発や人材育成、マッチングなどを実施している。

5-3 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

5-3-1 企業活動の源となる人材の確保と育成

企業経営において、人材の確保は不可欠であるものの、生産年齢人口が減少する現状において、人材確保は年々困難さを増している状況。企業が持続可能な企業活動を行うことはもちろんのこと、更なる成長をしていくために、企業活動の源となる人材の確保と育成を進める。

(1) 中小・小規模企業の採用力強化と担い手の確保・育成

中小・小規模企業に対する採用力・人材育成力向上のためのセミナーや人事制度の整備に係るコンサルタントの派遣等により、企業の担い手確保や育成を進める。

また、特に人手が不足している業界において、マッチングや職場体験の機会の提供等を通じ、職種に応じた技能や資格要件等を踏まえた企業が求める人材の確保・育成を支援する。

(2) 多様な人材が一層活躍できる職場環境の整備

中小・小規模企業に対するテレワークや業務改善、人材確保などに係る相談機能の充実やセミナーの実施等を通じて誰もが活躍できる多様な職場環境づくりを支援する。

5-3-2 多様な人材の活躍促進

生産年齢人口の減少が進む札幌市において、持続可能な経済発展を遂げるためには、今まで以上に、性別や年齢、国籍等にとらわれない多様性に富んだ人材の活躍が不可欠である。また、企業活動においても、多様な人材を生かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することが、イノベーションの創出や生産性の向上、企業の競争力強化につながることから、多様な人材の活躍を促進していく。

(1) 就業サポートセンター等事業

ア 札幌市就業サポートセンター

官民共同窓口による無料職業紹介、各種セミナーやスキルアップ講座、職場体験等からなる再就職支援事業、労働問題・社会保険に関する相談等を行っている。

HP <https://www.sapporo-sc.jp/>

イ あいワーク

就業サポートセンターのある北区を除く9区に開設する、国と市が共同運営する就労支援施設。ハローワーク相談員による職業相談・紹介状発行、市相談員による応募書類添削・職業興味検査等を行っている。一部の区においては、労働問題・社会保険に関する出張相談も毎週1回行っている。

(2) ワークトライアル事業

おおむね50歳以下の求職者や非正規社員等を対象に、就職に必要な能力を身につけてもらう研修及び職場実習などを実施し、さっぽろ圏内企業への正社員就職等を支援している。

(3) 女性の多様な働き方支援窓口運営事業

女性の就労を支援する窓口「ここシェルジュ SAPPORO」では、就労の相談に併せて、市内の認可保育園の空き状況や子育て支援サービス等の情報を提供するなど、就労と保育の一体的相談を行っている。

HP <https://coco-cierge.com>

(4) 障がい者の就労支援

障がいのある方が充実した地域生活を送るためには、障がいの特性等に応じた就労の場の確保が重要である。札幌市では、国や北海道が行う障がい者就労支援施策に加えて、障がいのある方を5人以上雇用するなど一定要件を満たす事業所に対して事業費の補助を行う障がい者協働事業などの独自施策を展開している。

また、一般就労が困難な障がいのある方は、障害者総合支援法による就労継続支援や地域活動支援センター、地域共同作業所等を利用しているが、本市は、これらの事業所に対する運営費等の支援のほか、「元気ショップ」や「元気ショップいこ〜る」で、事業所で製作される製品の販路拡大を図るとともに、共同受注を行う「元気ジョブアウトソーシングセンター」の設置など、事業所で働く障がいのある方の工賃向上への支援に努めている。



▲地下鉄南北線大通駅コンコース内
「元気ショップ」

5-3-3 道外・海外からの人材の呼び込み

札幌市における若年層の道外への転出超過といった状況を改善するためには、東京圏への一極集中の是正の動きが加速してきたことを契機に、道外・海外から札幌経済の担い手を確保することが求められる。

このことから、積極的な道外からのUIターン促進や、IT・コンテンツ・バイオをはじめとする企業の誘致や姉妹都市間の交流等の人的・経済交流により、札幌経済の担い手を増やし、地域経済の活性化を図るため、道外・海外から人材を呼び込んでいく。

